

実践！小学校の授業に活かすネイチャーゲーム

記入日：2017年6月26日
インストラクター 鶴田義明

1. はじめに

私がネイチャーゲームと出会ってから3年目の2000年、自然活動を共にしていた小学校の先生から、「授業で自然体験学習をやりたいのでゲストティチャーとしてご指導いただけないか。」との依頼があり、「総合的な学習の時間」に、午前中の4単位(約3時間)ぶち抜きでネイチャーゲームを行ったのが始まりです。5感を使って自然を感じ楽しんでいる子どもたちの姿に、学校や先生方がとても感動され、終了後すぐに「来年もぜひ！」という予約が入り、以来現在まで、18年間継続して実施しています。

校長先生からは「周りに自然が豊かな本校では、子どもたちには心に残る自然体験をして卒業させてあげたい。それには、自然とふれあいながら楽しく学べるネイチャーゲームがいい。」とのお話もあり、これからも更に繋がっていくものと思われまます。

2. 実践内容

①テーマ；「校区の自然となかよくなろう！」—ネイチャーゲーム—

② 実施日及び対象

実施日	対象 (人員)
2000・7・15	3年生 120名 (3クラス)
2001・10・20	3年生 97名 (3クラス)
2002・10・30	3年生 106名 (3クラス)
2003・10・1	3年生 116名 (3クラス)
2004・6・2	3年生 111名 (3クラス)
2005・5・12	3年生 110名 (3クラス)
2006・5・11	3年生 121名 (3クラス)
2007・5・11	3年生 120名 (3クラス)
2008・5・8	3年生 147名 (4クラス)
2009・5・1	3年生 150名 (5クラス)
2010・5・25	3年生 174名 (5クラス)
2011・5・26～27	3年生 185名 (5クラス)
2012・9・20～21	3年生 186名 (5クラス)
2013・6・27～28	3年生 157名 (5クラス)
2014・6・25～26	3年生 174名 (5クラス)
2015・6・11～12	3年生 179名 (5クラス)
2016・6・7～8	3年生 143名 (4クラス)
2017・6・7～8	3年生 176名 (5クラス)

③今までに実施した主なアクティビティ

「ノーズ」「コウモリとガ」「カモフラージュ」「音いくつ」「サウンドマップ」

「ネイチャーリスト」(「宝さがし」のオリジナルアレンジ版)「目かくしイモ虫」

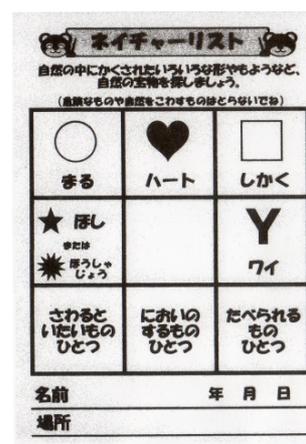
「目かくしトレイル」「木の鼓動」など

④実施要領及びプログラム (後記)

3. 成果と課題

[成果]

- 子どもたちから毎年たくさんの感想文を頂いており、「とても楽しかった。」「しぜんってすごい。」「自然がとっても好きになりました。もっともっと自然のことが知りたい。」「またやりたい。」「あんなにたのしいゲームは、いっしょうわすれないだろうと思いました。」「今の2年生が3年生になってもきてください。2年生がとてもまっけているとおもいます。」などなど、



心に残る自然体験学習ができているようです。まさに「楽しさは学ぶ力！」を実感です。また、子どもたちのそんな「思い」が、今日まで繋がっている要因の一つと思われます。

- ・自然体験学習として、秋に、同じ3年生に実施している「植物のふしぎ—たね—」の授業（クラス毎2単位90分）にも連動し、子どもたちはいつも心待ちにしてくれており、これも今年で18年間続いています。
- ・これまでに校長は5代目、関わられた担任の先生は70名を超えますが、転任先の学校からも依頼があったりして、他校へも拡がっています。
（これまでに私がゲストティチャーとして出向いた小学校は30校ほどありますが、内20校以上でネイチャーゲームを実施しています）
- ・福岡県の森林環境教育の一環としても、小学校からのネイチャーゲームの要望が多くなり、また、今年度から福岡市では、学校でのネイチャーゲーム実践例を踏まえた学習プログラムを環境局から提供することになっています。

[課題]

- ・フィールドの関係から、其々のアクティビティをクラス毎同時進行で行うため、フローラーニング通りでないクラスもありますが、実践面で特に問題はありません。
- ・先生方が超多忙で、学校サイドとの下見&打ち合わせ(レクチャー含む)の時間が充分とれないこと。(約90分) 従って、本番では先生方にはサポーターとしての役割はあまり期待できず、むしろ子どもたちと一緒に楽しんで頂いています。
- ・スタッフの高齢化。特に自分自身も喜寿を迎え、そろそろソフトランディングする時期に入っていることです。必要スタッフ人員6~8名は、長い間《つるた自然塾》のネイチャーゲーム指導員で支えられていましたが、数年前から地域の《つくしSNの会》からも応援頂き、現在はコラボで対応しています。近々、地域の会又はそのメンバーの方へバトンタッチできればいいなあと思っているところです。

4. 本報告を参考にされる方へ

- ・持続可能な運営を行うためには、学校や先生方は勿論、スタッフやあらゆるステイクホルダーとの信頼関係の構築が欠かせません。
 - ①安全の確保（リスクマネジメント、危険予知能力）
 - ②体験を通して何を伝えたいのか・学校のニーズはどこにあるのか
（コンセプトを見据えて、伝えたい思い(目的)などポジショニングを明確にする）
 - ③子どもたちと楽しさや感動を共有できるマインド
など、プロフェッショナルな意識と心構えが求められます。
- ・講師(スタッフ)謝礼を含む必要経費の予算措置や、カリキュラムへの組み込みなど、学校サイドが意欲的な取り組みをして頂けるよう日頃のコミュニケーションづくりも大切です。
- ・体験型環境教育の一環として、生きる力を育み、命あるものや自然を大切にすること(感性)を養うためには、ネイチャーゲームはとても効果的であることを日頃から痛感していますので、この事例を参考に、社会的なニーズをチャンスとして捉え積極的に取り組んでいかれることをお勧めします。
- ・子どもたちの笑顔は明日の希望です。「自然と触れ合うほんものの楽しさを、一人でも多くの子どもたちや次世代を担う人々に伝えたい。」それが私の自然案内人としての「思い」です。そして、関係者の皆さまへ感謝の気持ちでいっぱいです。

5. 活動写真



「コウモリとガ」



はじめに

6. 活動を取りまく主な関係団体とその役割

主な関係団体	主な役割
筑紫野市立筑紫小学校	主催・先生(担任ほか)のサポート
ちくしシェアリングネイチャーの会	指導及びスタッフ
博多ネイチャーゲームの会	同上
つるた自然塾(ネイチャーゲーム指導員)	同上

7. プログラムのテーマやねらい

本活動は……

総合的な学習の時間(4単位)に、体験型環境教育の一環として実施。

校区の自然に目を向けることで、地域社会(環境)との出会いをより身近なものに感じ、自己の課題に取り組むきっかけづくりとする。そして、身近な自然や、そこにいる生物に興味関心を持つことによって、自分たちと自然との関りに気づき、生命を大切に作る心や生きる力を育む。

8. プログラム

①実施要領は次の通り。

ネイチャーゲームを通して、様々な感覚を使って身近な自然とふれあいながら自然の楽しさや不思議さを直接体験する。

★クラス毎に別れ、其々2グループ編成し(約17名~18名)計6グループで実施する。同時進行で3アクティビティを実施(各40分)、クラス単位で移動する。(移動5分)

(1日目)

(実施アクティビティ名)	(実施場所)	(担当指導員)
①「コウモリとガ」	(校庭)	
②「カモフラージュ」	(南側道路)	() ()
③「ネイチャーリスト」	(西側駐車場周辺)	() ()
(時 間)	1組(先生) 2組(先生) 3組(先生)	
	赤 白 赤 白 赤 白	
(担当指導員)	() () () () () ()	
8 ; 55 ~ 9 ; 20	はじめに(「ノーズ」含む)(全員)……→	
9 ; 25 ~ 10 ; 05	① ② ③	
(トイレ休憩)		
10 ; 20 ~ 11 ; 00	② ③ ①	
11 ; 05 ~ 11 ; 45	③ ① ②	
11 ; 50 ~ 12 ; 00	ふりかえり(全員) ……………→	

※2日目は、4組、5組で同様のプログラムで実施

ちくしエアリングネイチャー通信

第201号

2015年7月28日発行

1. 活動報告

(1)【筑紫小学校3年「総合的な学習」2015】



『自然と仲良くなろう!』 - ネイチャーゲーム -

(筑紫小の校章)

“今年で16年目になります。これだけ長く継続して「ネイチャーゲーム」を実施している学校は、県内はもちろん全国的にも類を見ない取りくみです」という《つるた自然塾》の鶴田さんの活動に、ちくしSNの会から三人参加(安部・千種・大庭)しました。この16年目という貴重な証は、校内に入っただけで、校庭でも、廊下でも、教室でも「あっ!つるちゃん」「あっ!ネイチャーゲームの人!」と、あちらから、こちらから、「つるちゃんコール」が起こります。この子たちの笑顔が何より力強い喜びですし、子どもたちにエネルギーをもらった二日間です。

活動内容

・目的: 身近な自然や、そこにいる生物に興味関心をもつことによって、自分たちと自然との関わりに気づき、自然を守っていくことの大切さを考える。

活動場所 <学校内 校庭周辺>

- ・日時: 6月11日(木) 3年3クラス
6月12日(金) 3年2クラス 総勢179名
- ・活動場所: 学校内 校庭周辺
- ・実施アクティビティ:

- ① 「コウモリとガ」
- ② 「音いくつ」「サウンドマップ」⇔「カモフラージュ」
- ③ 「ネイチャーリスト」

当日までに、綿密な打ち合わせ・事前ポイント説明・運営・進行手順等具体的な示唆がさしめされ、SN指導者への意思統一を重視された。たとえば、子どもたちに伝えたい思いを、

- ① コウモリとガでは「自然界では命がつながっていること」、
- ② カモフラージュでは「自然界で生きのびていくための知恵」、
- ③ ネイチャーリストでは「自然の中には宝物がいっぱいある」と、具体的な方法を語り合われたの取り組みです。

この日の前後、天候が大雨・雷注意と不安定な日々でした。

一日目不思議にその活動時間帯だけ雨が降らず、降っても霧雨のような小さな雨で、急遽「カモフラージュ」を、中庭で「音いくつ・サウンドマップ」に切り替えましたが、二日目は、暑い暑い陽ざしを受けながら予定通り活動できました。

3年生らしい「説明を理解できていない」「手をつないでじっとして居れない」「さわりたいがる」



ノーズからスタート



室内でコウモリとガ

等々、向き合う態度に騒々しさ・集中力に欠ける現象も見受けられましたが、「風の音」「木の葉の音」「赤ちゃんでんでんむしに会えた」など素晴らしい反応をしてくれています。毎回、鶴田さんが用意して下さる「ヨモギ茶」「ドクダミ茶」の試飲には、「ドクダミの臭い」とお茶の味が結びつかない不思議な顔で「おいしい」「おいしい」と、おかわりをする子どもも多く、「十薬」として身体にいいことなどお話を聞きながら味わっていました。もちろんネイチャーリストで「ヨモギ」「ドクダミ」「ミツバ」「カキドオシ」などを匂ったり、食べられることを確かめていました。

授業の時間設定の中の活動と、興味津々の子どもたちの「まだしたい・まだ見たい・まだ扱いたい」まだまだが一致せず、急がせる状態で満足感をたくさんプレゼントしたい活動でした。

二日間ともに終わって子どもたちとガヤガヤとお話いっぱいのお給食をいただきました。また、子どもたちの感想文が送られてくるということです。その時は、また子どもの反応を読んでください。

カモフラージュの旅



グループで確かめ合い



テルテル坊主のお話



記：大庭 万千代



雨のサウンドマップ